編集後記

今号も玉稿が多数寄せられ、編集部はうれしい悲鳴をあげた。私たちはこの間、日本における反日自虐史観と戦ってきたが、次第に同じような歴史認識問題が韓国にも米国にもあることを知るようになった。

韓国では自国の反日歴史観が韓国の建国 以来の歴史を否定する反韓史観と深くつな がっていることに強い問題意識を感じる知 識人が多数出てきて、2019年から「アンチ 反日革命」を起こしつつある。そのことを 拙稿で報告した。そのアンチ反日知識人ら は私たち日本の保守派との連携を強めよう としている。昨年12月にリモートで行った 日韓国際シンポジウムの記録を読むと、彼 らの問題意識がよく分かる。

昨年12月に、拙著『でっち上げの徴用工問題』が韓国語に全訳されて出版された。 訳者は、上記日韓シンポジウムで報告してくれた李宇衍博士、出版社はメディア・ウォッチだ。メディア・ウォッチの代表の 黃意元氏は本誌第7号掲載拙論で取り上げたように、元慰安婦の証言の変遷を詳しく検証した、勇気あるジャーナリストだ。 実は、ちょうど本号が発行される頃、同じくメディア・ウォッチから李宇衍訳で拙著『よく分かる慰安婦問題』が全訳出版される。李宇衍氏、黃意元氏と私は「日韓友好は真実の上に成り立つ」という信念を共有している。嘘と戦う同志が韓国に出てきた。うれしいニュースだ。

髙橋論文とJ・モーガン論文は、日本と 米国の歴史認識問題の現状の深刻さを赤 裸々に伝えている。髙橋論文では日本学術 会議のいくつかの部会が反日左派に乗っ 取られ、「ジェンダーから見た歴史」とい うこれまであまり聞いたことのない問題設 定をして、従来の常識的な歴史観をすべて ひっくり返そうと蠢いてきた実態を明らか にした。なお、髙橋氏は月刊『正論』4月 号に、同じテーマを一般向けに読みやすく まとめた論文「フェミニズムに狙われる歴 史教科書」を寄稿している。併せ読むこと をお勧めする。J・モーガン論文は、ジェ ンダー論と自虐史観の結びつきは米国でも 顕著であることを詳しく報告した。J・モー ガン論文を通読すると日本よりも米国のように が、歴史認識問題が深刻であるかのように も思える。しかし、米国にもジェンダー論 と結びついた自虐史観と戦う、勇気ある学 者らが多数いることも知った。日韓で今進 めているような、自虐史観と戦う知識人同 士の交流と連帯を、米国との間でも持てな いかと考えている。(西岡)

巻頭の長谷論文は、『特高月報』の報ずる 争議事件を徹底的に分析し、朝鮮人戦時労 働者にまつわる既存の研究の盲点を指摘し た。「強制連行」も「奴隷労働」も資料的根 拠は薄弱で、要は一次史料の「つまみ喰い」 に過ぎないのだ。

「ラムザイヤー教授を支持する公開書簡」を我々6名の連名で出したら(本誌掲載)、ニューヨーク・タイムズの記者から筆者の許に、電話で取材の依頼があった。これには驚いたが、ハーバード大学が学問の自由を否定するなら、アメリカはもう自由の国とは言えないと思うと答えたら、それがそのまま同紙の記事として出た(2月26日付)。

ラムザイヤー氏よ、頑張れ。(勝岡)

歷史認識問題研究

(年2回発行)

第8号(令和3年春夏号)

発行日:2021年3月18日 発行人:西岡 力 編集人:勝岡 寛次

編集部:歷史認識問題研究会

頒 価:1,000円

発行所: 〒277-0065 柏市光ヶ丘2丁目1番1号 公益財団法人モラロジー研究所

西岡 力 研究室

Tel:04-7173-3197 Fax:04-7173-3199 印刷所:株式会社 長正社